

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和4年9月6日	評価結果市町村受理日	令和4年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2171900067-00&ServiceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近代的な建物が多い中、私共のホームは以前料理旅館であった物を改装した物であり古風ですが、中は広く過ごしやすくなっております。舞台もありコロナ前はボランティアの方々が来て下さり、色々な催し物を見る事が出来ており、入居の皆様も楽しまれていました。ここでカフェもやる事にしておりましたが、コロナで現在は出来ませんが、コロナ終息の折には認知症カフェを開きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

児童館(学童保育)の子供が作品を作り事業所に届けてもらい、お礼に利用者と一緒に作品作って子供に届けた。民生員が橋渡しをして小学生から利用者宛に年賀状が届いたので利用者が書いたり、職員が代筆したりして返事を出している。契約時に看取りをしない方針を伝えているが、身寄りのない人や遠方の人など家族が希望される方は協力医や訪問看護と連携し、看取りを行っている。排泄チェック表からパターンを把握し声を掛けてトイレに誘導している。立位が困難な方は2~3人で介助して誘導している。利用者の表情や態度、言葉の端々からのサインを見逃さず、声掛けてトイレへ誘導を心掛けている。利用者のやりたいことや出来ることを取り組めるように職員で話し合いながら取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝、引継ぎ毎に理念の唱和を行っている。尊厳について職員会議で話し合って、現在は以前より一人一人の気持ちを理解できるように寄り添って来ている。	管理者は、ミーティング時に尊厳を大切にしたい言葉使いや安全に過ごせるように支援することを伝えている。職員は利用者のペースや気持ちに寄り添うことを大切にしている。管理者は今の理念は職員には理解しにくいのではないかと考えている。	理念は開設時に考えられたものである。取り組みたいことや大切にしたいことなど職員間で話し合い、理念をより深く理解し、実践に繋がることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為直接の交流は困難であります。児童館の子供さん達から作品を頂き、お返しに利用者さんと職員で作品を作りお返しをして交流を続けている。	児童館の子供が作品を作って持って来てくれたのでお礼に利用者と一緒に作品を作り渡している。民生員が橋渡しをして小学生から利用者宛に年賀状が届いたので利用者が書いた、職員が代筆したりして出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為出来ておりませんが、運営推進会議を通して発信している。一日も早く認知症カフェを再開したいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、活動状況の報告、拘束、災害計画などの相談にもご意見を頂きサービス向上に努めている。	コロナの感染状況により集会もしくは書面で会議を開催している。事業所の活動状況や市の実施指導の内容を報告し話し合っている。避難訓練や身体拘束、事故対策などメンバーの意見を参考にして職員間で話し合いながら取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所、地域包括の方も出席頂き意見交換を行い、時には市役所に出向いている。	市の担当者に書類作成について不明な点を聞きに行ったときに情報を交換している。市主催の研修会に参加して事業所の状況を伝えている。コロナ禍前は市から依頼されて認知症カフェを開催し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で取り組んでおり、又推進会議時意見を頂き、同業者へ意見を聞きながら拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の研修会も行っている。I棟は現在外に出て行く方があり玄関は施錠してある。	外部から講師を招き定期的に身体拘束について研修している。ミーティング時に委員会を開催しているが議事録を確認できなかった。事業所前の道路は交通量が多く、利用者が外に出ていこうとするため玄関に施錠している。	事業所として身体拘束廃止に取り組むためにも定期的に委員会を行いケアの内容や玄関の施錠など見直すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても職員全員で研修会に参加している。ミーティング時には意見交換をしている。体等のチェックしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見制度利用の方がみえたので理解出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人と家族でホームに来て頂き説明をしていたが、今はコロナの為出来ない。家族との意見要望等は十分話し合っただけで納得している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為家族の面会を控えさせて頂き、電話、手紙、メール等で対応している。	毎月、家族に手紙で近況を報告している。電話で生活の様子を伝え意見や要望を聞いている。家族から面会や利用者との外出などの要望があり、玄関先での面会や感染対策を講じての外出などに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はその都度行い、ミーティングでも意見交換を行う。	管理者は日頃から職員の体調や家庭のことなど気を配り声を掛けている。職員は介護の方法や対応の仕方など話し合っただけで取り組んでいる。障子の張替や紅葉狩りなど意見が出され検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し易い環境にあり意見や提案は常時出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に代表も現場に入り勤務状況も見ている。人員にゆとりを持って行って来たがここに来て高齢化してきて人員不足によりストレスも溜まっている人も居るのではないかと意見を聞く必要あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより思う様に研修も受けられないが、スキルアップ研修は講師が来られたり、オンラインで行っている。コロナの為交流は出来ていない。資格講習等では交流をしている職員は要る。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を知り、話題を広げ本人が慣れない環境での不安、緊張を取り除き安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と問題点を共有し、共感をもって要望を親身になり誠意を持って対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば他のサービスも出来る範囲で利用できる様に支援し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事をして頂く事が自立支援に繋がる為出来る事は自分で行い、出来ない所は皆で力を合わせ一つの仕事を一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の家族状況を把握し担当者を決めて家族とコミュニケーションを取りながら協力関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院など行きつけの所の関係は支援している。	家族より行きつけの美容室に連れて行きたいと要望があり出掛けている。利用者の家族等が突然来所された場合は、距離を取って面会できるように取り組んでいる。電話をかけた時、年賀状を書いたり関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お互いがとっても良い関係性があり助け合ったり、支えあっている場面が見られる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからは他の施設に行かれた方とは連絡は取りづらいが、入院された家族とは連絡を取る事はある。亡くなられた家族から連絡や、家族が来て下さることも時々ある。家族から今後の事について相談があり、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活を把握し希望や意向を聴き自由に安全な生活が出来る様にしている。	利用者の横に座った時や1対1になった時に思いを聞いている。レクリエーションをしながら好きな物ややりたいことなど聞くこともある。困難な方には写真を見せて選べるように工夫して思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で出来るだけ把握するように努めている。ミーティングで意見交換し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し心の状態変化を素早く気付き申し送り、日報等により全員が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個々の担当者が生活状況を報告し合い、家族、主治医の意見等により現状に即すように計画を立てている。	計画作成担当者が家族に電話して状態を伝えて計画に対する要望を聞いている。モニタリングは担当する職員が定期的に行っている。ミーティングで話し合っ職員の見解を取り入れて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報に記録し話し合いそれぞれの意見を反映して作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に必要なもの、家族が行けない病院の付き添い等出来る事は柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナにより公共の場に行く事が出来ないのが現状である。近くのスーパーに買い物に行く人もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療について同意書を交換して納得理解を得ている。主治医とは何時でも意見交換を出来る様に務めている。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族に利用者の状態を書面で渡し、受診の結果を確認している。発熱や体調が悪い時は、職員が受診に同行し、受診の結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいない為介護職員が常に体調変化に気づき情報を共有し主治医との連絡を取り適切なアドバイスを受け処置、受診等出来る様に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナにて見舞が出来ない為本人の状態確認する事が出来ないが、相談委員より情報提供がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い協力を得ている。又主治医と密に連絡を取り合い、職員も共有し取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明している。状態の変化に伴い早い段階から家族や医師、職員で相談している。身寄りのない方や遠方の方など希望があれば看取りを行っている。コロナ禍ではあるが終末期の方には家族が面会できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を全員で受講し初期対応、AEDの使い方等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は、訓練にて出来ている事とまだまだ煮詰めないとならない事がある。	事業所の裏に水路があるため氾濫した場合の対応を検討している。水や食糧、オムツなど備蓄している。年2回火災や水害を想定して避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練を行っていない。また、地域の方の協力体制が得られていない。	災害発生時に事業所のみでの対応は困難である。運営推進会議や関係機関の相談しながら夜間を想定した訓練の実施や地域の方の協力が得られるように取り組んで欲しい。

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ介助の声掛けには注意している。 個々の人格を尊重し対応している。	管理者は、ミーティング時に利用者のペースを大切に敬うような言葉掛けを行うように伝えている。職員は、利用者の思いを傾聴することを心掛け、やりたいことや出来ることを行えるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日行っている体操、レクリエーション、入浴等は自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせてテレビを観る、作業をする、横になる等は自由に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った着やすい服装を支援、必要な人にはアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、好みの物の献立などを楽しんで頂く。エンドウ等のスジ取り、テーブル拭き等出来る事を行っている。	職員が利用者の食べたい物を聞いてユニット毎に献立を考えている。誕生日には、うなぎやラーメンなどリクエストに応えている。利用者は、食器拭きや台拭き、下処理など出来ることを手伝っている。主食がパンの時に、好みに合わせてご飯を提供するなど柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて食べる量や食べ易い摂取方法で行っている。水分は声掛けをしたり飲んで頂ける物に代えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的にできる人は毎食後出来ているが、昼食後が出来ていない人もいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して定期的に声掛けトイレ誘導を行い失敗を減らす様になっている。	チェック表で排泄パターンを把握して声を掛けてトイレに誘導している。立位が困難な方は2～3人で介助してトイレに誘導している。職員同士で利用者の表情や態度、言葉からサインを見逃さないように見守り、自立にむけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や水分、適度な運動など心掛けている。医師より便秘薬を頂き服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きでない方もいる為、特に声掛けで楽しむ事が出来る様に支援し強制する事無く行っている。	入浴順や湯温、入浴時間の長短、同性介助など利用者の希望に合わせている。入浴剤やゆず湯、しょうぶ湯など入浴を楽しめるように取り組んでいる。嫌がられる利用者には声掛けを工夫したり、時間や日を変えたりして無理強いせず利用者の気持ちに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や天候に応じて寝具を替えたり室温を調節して気持ちよく眠れる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬について理解し、誤薬が無い様に必ず2名の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだりすること。コーヒーの好きな方が多いので時々提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出は出来ていない。	コロナ禍前は、利用者と一緒に弁当を持って近くの公園まで出掛けていた。利用者の気持ちを家族に伝え帰宅や墓参りに出掛けている方もいた。利用者が希望する場合は、職員と一緒に近くの店に買い物に出掛けている。家族から希望があり、結婚式に出席した方もいる。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はほとんどの方が家族が行けない、事務で預かっている方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは出来ているが、手紙は職員が1か月に一度日々の暮らしや状態を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた作品や小物等を飾っている。	玄関には、利用者と一緒に作った干支の作品を飾っている。職員は、換気や温湿度に気を配り、利用者と一緒に掃除して快適に過ごせるように心掛けている。廊下や階段に利用者の好きな動物の写真を飾り会話のキッカケとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所で本、新聞、お喋り、居眠りなどをして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具などを持ち込み、家族の写真を部屋に置いている方も有る。	使い慣れた布団や茶碗などを持ち込んでいる。仏壇を持ち込み毎日、水を供え手を合わせている方もいる。家族が持って来た孫の写真を飾っている。針仕事や折り紙など居室で趣味に没頭する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が出来る事出来ない事、分かる事分からない事を職員が把握して生活を支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和4年9月6日	評価結果市町村受理日	令和4年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2171900067-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝、引継ぎ毎に理念の唱和を行っている。尊厳について職員会議で話し合っており、現在は以前より一人一人の気持ちを理解できるように寄り添って来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為直接の交流は困難であります。児童館の子供さん達から作品を頂き、お返しに利用者さんと職員で作品を作りお返しをして交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為出来ておりませんが、運営推進会議を通して発信している。一日も早く認知症カフェを再開したいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、活動状況の報告、拘束、災害計画などの相談にもご意見を頂きサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所、地域包括の方も出席頂き意見交換を行い、時には市役所に出向いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で取り組んでおり、又推進会議時意見を頂き、同業者へ意見を聞きながら拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の研修会も行っている。Ⅱ棟では玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても職員全員で研修会に参加している。ミーティング時には意見交換をしている。体等のチェックしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見制度利用の方がみえたので理解出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人と家族でホームに来て頂き説明をしていたが、今はコロナの為出来ない。家族との意見要望等は十分話し合っって納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為家族の面会を控えさせて頂き、電話、手紙、メール等で対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はその都度行い、ミーティングでも意見交換を行う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し易い環境にあり意見や提案は常時出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に代表も現場に入り勤務状況も見ている。人員にゆとりを持って行って来たがここに来て高齢化してきて人員不足によりストレスも溜まっている人も居るのではないかと意見を聞く必要あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより思う様に研修も受けられないが、スキルアップ研修は講師が来られたり、オンラインで行っている。コロナの為交流は出来ていない。資格講習等では交流をしている職員は要る。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を知り、話題を広げ本人が慣れない環境での不安、緊張を取り除き安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と問題点を共有し、共感をもって要望を親身になり誠意を持って対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望があれば他のサービスも出来る範囲で利用できる様に支援し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事をして頂く事が自立支援に繋がる為出来る事は自分で行い、出来ない所は皆で力を合わせ一つの仕事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の今までの生活環境、生い立ちなどを聴き、電話や面会時には職員が対応し家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのせいで済ませられないので電話、手紙等で繋がりを断ち切らないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立せずそれぞれ気の合ったもの同士が関わり合い、又全員でトランプ、かるた遊び等定期的に行い楽しんでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからは他の施設に行かれた方とは連絡は取りづらいが、入院された家族とは連絡を取る事はある。亡くなられた家族から連絡や、家族が来て下さることも時々ある。家族から今後の事について相談があり、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部屋に仏壇を置き毎日水を替えお参りをしている。又好きなもの作りを楽しんでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で出来るだけ把握するように努めている。ミーティングで意見交換し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し心の状態変化を素早く気づき申し送り、日報等により全員が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に個々の担当者が生活状況を報告し合い、家族、主治医の意見等により現状に即すように計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報に記録し話し合いそれぞれの意見を反映して作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に必要なもの、家族が行けない病院の付き添い等出来る事は柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナにより公共の場に行く事が出来ないのが現状である。近くのスーパーに買い物に行く人もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療について同意書を交換して納得理解を得ている。主治医とは何時でも意見交換を出来る様に務めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がない為介護職員が常に体調変化に気づき情報を共有し主治医との連絡を取り適切なアドバイスを受け処置、受診等出来る様に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナにて見舞が出来ない為本人の状態確認する事が出来ないが、相談委員より情報提供がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い協力を得ている。又主治医と密に連絡を取り合い、職員も共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を全員で受講し初期対応、AEDの使い方等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は、訓練にて出来ている事とまだまだ煮詰めないとならない事がある。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ介助の声掛けには注意している。 個々の人格を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日行っている体操、レクリエーション、入浴等は自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせてテレビを観る、作業をする、横になる等は自由に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る人は毎日自分で選んで着ている。日中の気温の変化に応じて自室に着替えに行く人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんがパン食の時でも、ご飯が良い人にはご飯を用意している。嫌いな物は皆さんと違う物を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて食べる量や食べ易い摂取方法で行っている。水分は声掛けをしたり飲んで頂ける物に代えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来ない人は食後に口をすすいでもらっている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して定期的に声掛けトイレ誘導を行い失敗を減らす様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や水分、適度な運動など心掛けている。医師より便秘薬を頂き服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きでない方もいる為、特に声掛けで楽しむ事が出来る様に支援し強制する事無く行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節や天候に応じて寝具を替えたり室温を調節して気持ちよく眠れる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬について理解し、誤薬が無い様に必ず2名の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好き嫌いが多く、提供する物も時にはバラバラの時もある。折り紙、裁縫などを楽しんで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出は出来ていない。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はほとんどの方が家族が行けない、事務で預かっている方もあり、自分で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは出来ているが、手紙は職員が1か月に一度日々の暮らしや状態を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた作品や小物等を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所で本、新聞、お喋り、居眠りなどをして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具などを持ち込み、家族の写真、仏壇を持ち込んでいる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が出来る事出来ない事、分かる事分からない事を職員が把握して生活を支援している。		